

第 63 回近畿高校バドミントン選手権大会県予選
兼
第 45 回全国高校選抜バドミントン大会県予選会

於 和歌山県立体育館

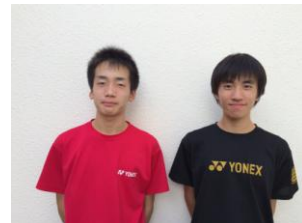
8月25日(木) 男子団体

1回戦 対 和歌山北高等学校 3-1
2回戦 対 那賀高等学校 0-3 **ベスト8**

8月26日(金) 男子ダブルス

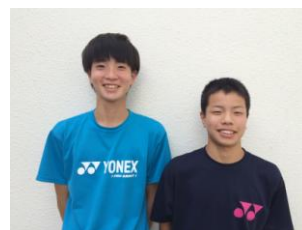
浪江利貴(2D)・吉本柁斗(2E) **ベスト8 → 近畿大会出場**

1回戦 対 星林高校 2-0 [21-11/21-12/-]
2回戦 対 那賀高校 2-0 [21-9/21-11/-]
3回戦 対 向陽高校 2-0 [21-12/21-7/-]
4回戦 対 粉河高校 2-1 [19-21/21-18/21-17]
5回戦 対 那賀高校 0-2 [11-21/13-21/-]



井谷悠人(1D)・多瀬茉莉都(1A) **ベスト16**

1回戦 対 神島高校 2-1 [12-21/21-12/21-17]
2回戦 対 那賀高校 2-0 [21-16/21-10/-]
3回戦 対 粉河高校 2-1 [15-21/21-14/21-17]
4回戦 対 近大附属高校 0-2 [5-21/8-21/-]
ベスト12決定戦 対 神島高校 0-2 [19-21/15-21/-]



8月27日(土) 男子シングルス

浪江利貴(2D) **ベスト32**

2回戦 対 有田中央高校 2-0 [21-14/23-21/-]
3回戦 対 和歌山北高校 2-0 [21-9/21-15/-]
4回戦 対 粉河高校 0-2 [17-21/8-21/-]

熊野秀哉(2看) **ベスト32**

2回戦 対 海南高校 2-0 [21-12/21-10/-]
3回戦 対 那賀高校 2-0 [21-11/21-14/-]
4回戦 対 神島高校 0-2 [10-21/3-21/-]



先輩達が引退して、新チームとして初めての大会が、今回の近畿大会県予選会でした。

総体予選が終わってから、夏休み中もずっとこの大会に向けて、日々のしんどい練習や遠征、県外・県内合宿を頑張って、チームみんなで乗り越えてきました。大会前日の公式練習での僕達の状態はとても良く、後は自信を持って、全力で本番に臨むだけでした。

そして迎えた大会初日、団体の1回戦、勝ちこそはしましたが、自分達らしいプレーはできず、チームに勢いをつけることはできませんでした。僕達の目標は、個人戦で近畿大会に出場すること…このままでは1月の新人戦で負けた時と同じ悔しい想いをすると考え、1回戦・2回戦…1試合ずつ落ち着いてプレーすることを心がけ、ベストな状態には程遠くても、少しずつ調子を上げていきました。そして近畿大会出場をかけた4回戦。「絶対、近畿大会に行きたい!」「期待を裏切れない」など、様々な想いを背負い過ぎて、普段なら当たり前前に決められるところでミスをしたり、身体が硬くなり、ショットが甘くなって、本来のラリーに持ち込めず、ファイナルセットまでもつれ込みました。最後まで自分達らしいプレーができたとは言い難いですが、夏休み中、仕事や学校の休みを使って、僕達の練習相手になってくれたOBの方や2階で応援してくれている敗退した仲間のことを考えると、絶対負ける訳にはいかないと思い、何とか勝ち切ることができました。しかし、ダブルスで近畿大会の出場権を獲得した安心感や連日続く試合に対する気持ちの継続のコントロールが難しく、シングルスでは納得のいく結果に繋がれず、情けない気持ちになりました。

大会が終わった今、結果を振り返ると、県ベスト8で近畿大会出場…バドミントンを始めてたった1年と数ヶ月。それで掴んだ近畿大会出場の切符に対しては、胸を張れることだと思います。でも、今回の試合内容には正直、全く満足できていません。僕達が追いかけている先輩達の大会での姿には、到底追いついていません。11月に大阪で行われる近畿大会では、県の代表選手として出場させて頂くので、それに恥じないようなプレーをして、胸を張って「良い試合だった」と言えるように、そして少しでも先輩達に追いつけるように、これからもより一層努力していきたいと思います。

バドミントン部 キャプテン 浪江 利貴